

バリアフリー

51期生

I テーマ設定の理由

日本は現在急速に高齢化が進み、それとともに「バリアフリー」という言葉が叫びだされました。日本の社会でバリアとなっていること、私達にできることは何だろう…。そう疑問に思い、私たちが今学校でおこなっているバリアフリー活動を見直して、「誰にでも住みやすい街」——バリアフリー社会を目指そう、そう思い、このテーマを設定しました。

II 研究方法

- (1) 文献調査…新聞、本などを参考にする。
- (2) 実際にバリアフリー活動に参加する。

III 研究内容

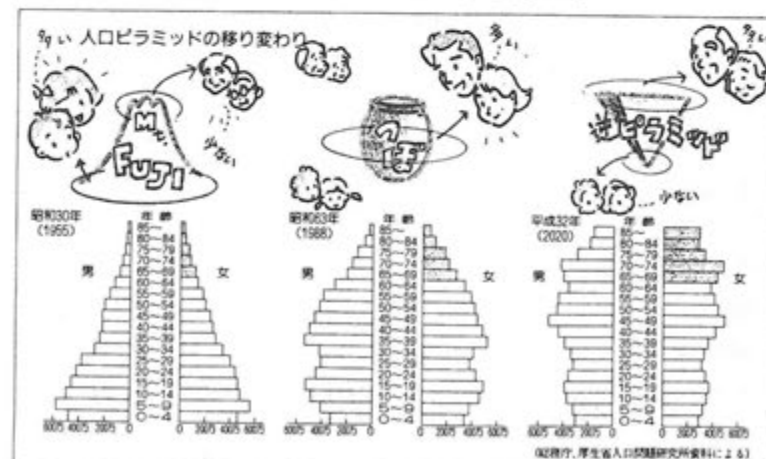
- (1) バリアフリーとは

現在日本は、急速な勢いで高齢化が進んでいます。寿命がのびた分、体が不自由になったりした高齢者の方は増えました。このような高齢者の方や障害をもった方、子どもや妊産婦の方などにとってのバリア（障壁）を取り除く（フリー）ことが「バリアフリー」なのです。「バリアフリー」社会を目指した活動は、今、社会のいたるところで始まっています。

私達の身の回りのいたるところにも、バリアフリーの工夫はみられます。例えばテレホンカードについているへこみ。これは目が見えない人でも、テレホンカードを入れる方向を知ることができるようにとされてある工夫です。また、電話機では「5」の番号のところに小さい突起がついています。他にも、お札には種類ごとに違ったへこみがつけられています。

「バリアフリー」の取り組みは、意外と身近なところにあるのです。

▼人口ピラミットの移り変わり



(2) 実際に参加したバリアフリー活動について

私達が実際に参加したバリアフリー活動について紹介していききたいと思います。

①乗鞍でのバリアフリー活動

バリアフリーが社会で話題になるようになってからは、私達の住んでいる大阪などの都市部では、バリアフリーを売り物にするホテルができたり、駅などの公共施設には、エレベーターや車椅子用のトイレが設置されるようになりました。

しかし、乗鞍では、バリアフリーは広まっていませんでした。バリアフリーのための設備にはお金がかかるし、障害者の方があまり来られないことが理由だと思います。

そこで私達は乗鞍にバリアフリーを広めようと、乗鞍の公共施設を訪ね、色々な活動をしました。

まず公共施設を利用している人達に、バリアフリーについてどれくらい知っているかなどのアンケート調査をし、図3のアイマスクを渡しました。このアイマスク

には、バリアフリーについての説明が書かれてあり、目が見えないということを体験してもらうためのものです。

また、施設の関係者の了解を得てから、点字テーブライターという機械を使って点字テープを作り、はりました。例えば、ドアには「押す・引く」、階段の手すりのところに「段差あり」、自動販売機のコイン投入口のところに「コイン」などで

そしてそば屋さんと喫茶店に行き点字メニューを作りました。点字シールは透明なので、目の不自由な人も健常者も共に使用が可能です。

私達のおこなったアンケート調査で「乗鞍はバリアフリーになっていると思いますか?」という問いに対して、「はい」と答えた人は0%でした。私達の活動を知って、乗鞍の人達がバリアフリーに興味を持って、バリアフリーが広まってくれればうれしいです。私達の作った点字メニューや点字表示が実際に役に立つかどうかは分からないけれど、これから乗鞍がもっともっとバリアフリー化して、障害者の方も高齢者の方も気軽に訪れることのできる町になってほしいです。

▼平成11年5月27日 信濃毎日新聞



▼乗鞍の人に渡したアイマスク

「バリアフリー」を知っていますか?

21世紀の日本は、障害者社会・高齢社会といわれます。日本全国の中で、高齢者や障害者を持つ人、子どもや高齢者のような人にとってのバリア(障壁)を取り除く(フリー)ことが、障害者にとって最もよい社会へとつながっていくのです。このように誰もが住みやすい社会を築いていくと、「バリアフリー」の社会を築けるのです。社会のいたるところで障壁があります。バリアフリー、何だか分からないことばかりかもしれませんが、身近なところにもいろいろな工夫がつけられています。本紙、テレビ番組、インターネットのコーナーなど、あなたも、身近な「バリアフリー」について調べてみてください。



②共生共走マラソン

共生共走マラソンは障害者も健常者もいっしょに走り、共生の社会を目指そう、というものです。車椅子に乗って走ると、少しでこぼこしたところでも、すごく振動して少し恐かったです。また、障害を持っていても補助があれば、健常者と何ら変わりなく走ったりできるということを知りました。

③中高生バリアフリーのつどい

私達の学校でも参加している、車いすを修理して南アフリカとベトナム、タイに送るという活動に参加している学校の集まりがありました。

(i)川村義肢

「川村義肢」という、車椅子や義足を作っている会社で、「バリアフリーのつどい」がありました。車いすに乗って、坂道や段差、石だたみなどが再現されたコースを回りました。普段普通に歩いていたら段差とも思わないような段差でも、車椅子でだととても越えるのが難しかったです。

また、手足が麻痺して動かないという障害と、言語障害とを併せ持つ方のお話を聞きました。「アメリカなどの遊園地では、乗り物にも車椅子で乗れる物と乗れない物の表示をきちんとしてあり、車椅子でも充分楽しめる。しかし日本では、乗り物どころか園内にさえ入れてくれないところがある。」とおっしゃっておられました。少しずつ変わってはきているようですが、日本でももっと障害者の方が自由に色々なところへ行けるようになればいいな...と思います。

(ii)ATCエイジレスセンター

ATCエイジレスセンターでおこなわれた「バリアフリーのつどい」では、グループと別れ、地下鉄の駅のバリアフリー調査をして、障害者アクセスマップというホームページを作りました。

この障害者アクセスマップの作成は私達の学校の授業の中でも取りくんでいます。点字ブロックや点字表示、車椅子用のトイレなどの設備の有無、改札口の幅やホームと電車のすき間の長さを測ったりして、それをもとに、アクセスマップを作成します。

私達は実際に車椅子に乗ってATC前の駅を調べに行きました。ATC前の駅は新しく、音声案内板(右の写真)などの設備がたくさんあり、障害者の方への配慮がいろいろな所にされていました。でも実際に車椅子に乗って車椅子用の電話の受話器に手をのばしても、下のタウンページを置く台に足がぶつかってしまい、取りづらいということもありました。

▼バリアフリー調査をしているところ



今でも他の駅に比べると、バリアフリー化された駅だと思えますが、改善すべき点はあるようです。他にも、地下鉄には下の図のようなええまちマップというのが置かれているのを知っていますか？ 駅長室に置いてあることが



中津駅
NAKATSU

大阪市交通局



▲車椅子用の電話

▲ええまちマップ

多いのであまり知られていませんが、このええまちマップには、駅構内の案内や、駅周辺の地図がのっているすぐれものです。車椅子用のトイレや、リフト付きの市バス乗り場がどこにあるのかものせてあるのでとても便利な地図です。こんな便利な地図なので、誰でも自由にとれるように、わかりやすいところに置いてほしいと思います。

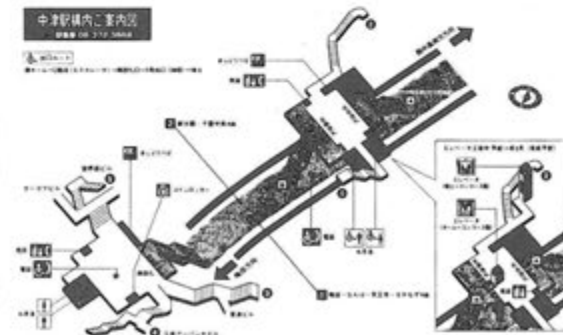
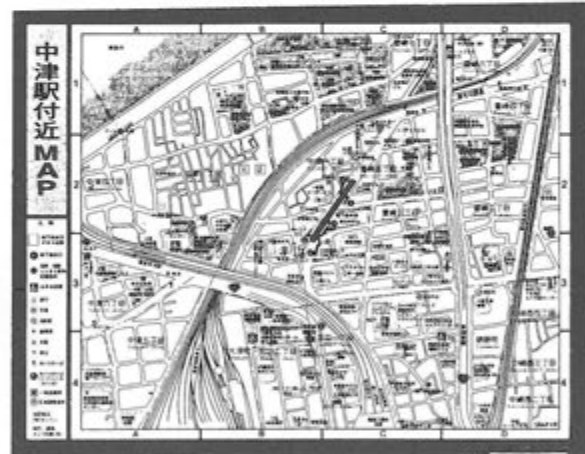
(ii) 市立中島中学校

12月11日に、市立中島中学校に修理した車椅子があつめられました。これらの車椅子は、タイ・ベトナム・南アフリカの障害者に贈られます。これらの国では車椅子は車より高価で、一般市民にはとても手に入らないものだそうです。

私達は修理した車椅子と、まだ修理されていない車椅子を梱包しました。修理されていない車椅子は、タイの学校に送られます。この「車椅子を修理する」という活動を知ったタイの学生たちが、私達も修理活動に参加したい…と言ってきたので、タイ語に翻訳された車椅子の修理マニュアルと一緒に未修理の車椅子を送り、タイでも実際に修理してもらおうそうです。国境を越えたバリアフリー…。少し嬉しくなっていました。

この活動には、学校や地域の枠を超えて、19校もの学校が参加しています。

▼ええまちマップの中身



朝日新聞
1999年
12月12日



使われなくなった車椅子を回収して分解・修理し、やすりでさびなどをおとします。この日は、そうして生まれ変わった車椅子を集め、ダンボールにつめてトラックにつみこむ作業が行われました。

これらの車椅子はいろいろなところから回収されるので、大きさ・種類はそれぞれ違います。なかにはダンボール箱には入らないものもあるので、ダンボールをつぎかさなくては行けません。このダンボール箱もリユースされたものです。みんなで協力してできあがったダンボール箱は65箱。これらは私達の写真と英語で書いたメッセージをそえて贈ります。南アフリカや東南アジアの障害者のほとんどが、車椅子を買うことができず家にずっとこもっているのだと聞きました。私達が修理した車椅子が、そうした人達の役に立てば、喜んでもらえたらとてもうれしいです。そしてどんどん外に出ていって、同じ障害者の人達を勇気づけてほしいと思います。障害者の人達が動かなければ社会は動きません。

私達中学生や高校生1人の力は小さいかも知れませんが、みんなで集まれば大きいことができるのだとこの日、改めて実感しました。こんなにたくさんの同じ世代の人達ががんばっているのだから、私達も負けてはいられません。

IV 考察・まとめ

今回の研究では、「実際に体験する」ことが主な研究方法となりました。自分で車椅子に乗ってみたり、地下鉄の駅の設定を調べてみ



◆車椅子を箱づめているところ



▲バリアフリーのつどいのみんな

たり。障害者の方のお話を聞くこともできました。そうしていく内に、あらためて疑問に思ったことがあります。

『バリアフリーって、本当は何なんやろ?』

エレベーター、スロープを設置すること、車椅子用トイレをつくること…。これも確かにバリアフリーだと思います。これから絶対に必要なことだということもわかります。しかし、一番大切なこと…『心のバリアフリー』は、どうなっているのでしょうか。人々は、バリアをなくそうとしているのでしょうか?

駅の調査をしに行った時、駅周辺には自転車があふれて、点字ブロックの上にまで乗っていました。また、日本ではまだまだ遊園地などの施設で障害者の利用を断ったりすることが多いようです。人々は、せつかくなくそうしているバリアを、また作ろうとはしていませんか?

車椅子に乗っていた方に手伝いましょうか? と声をかけたところ、とてもびっくりされました。これはまだまだ、障害のある人を助ける…ということが、当たり前になっていないことの表れではないでしょうか?

バリアフリー。この本当の意味を考えつつ、誰にでも住みやすい社会を目指して、まずは自分にできることからがんばっていきたいと思います。

V 感想

一年生のとき、初めて車椅子の修理に挑戦しました。そのときに感じた充実感が何だかすごく記憶に残り、バリアフリーということに興味をもつようになりました。ボランティア、バリアフリー。特別なことのように思っていたのですが、特別なことなどではなく、みんなが考えるべき当然のことなんだとわかったような気がします。今回の研究は、今までに参加した活動をふり返るよい機会となりました。これを読んでくれている皆さんもぜひ、参加してみてください! (堤)

私も初めてバリアフリー活動に参加したのは1年生の時でした。ほんの軽い気持ちで参加したのですが、今では何でも参加しています。それまでの私は、ボランティアは人のためにやるものなのだと思っていました。でも実際に参加してみると、とても楽しいし、たくさんの人との出会いがあるし、いい経験になるし…。人のためだけではなく、自分のためでもあるんだ、と気付きました。みんなで1つの大きいことができることや、人の役に立てるというところも、私がバリアフリーの活動にはまっている理由の1つです。多くの人に、バリアフリーに興味をもってほしいです。 (深田)

私はバリアフリー活動を学校で始めたのは3年生からですが、母が地元の手話サークルに入っているので、小学校の頃から興味は持っていました。そして、3年生で学校で本格的に活動をはじめ、すごく充実感を感じ、またさらにバリアフリーの活動にハマりました。これからもいろいろな活動をしていきたいです。 (上田)

VI 参考文献

- ・大阪地下鉄 ええまちマップ (中津駅) 大阪市交通局
- ・長寿に向けて (監修) 平井 淳 大阪市健康保険組合